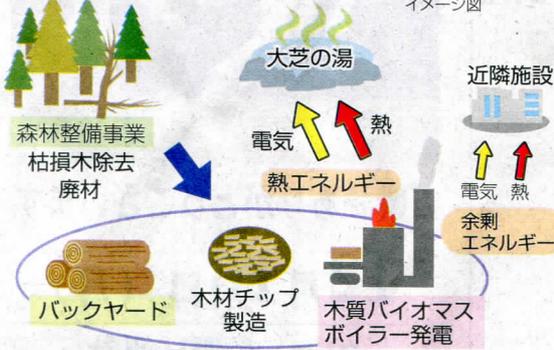


木質バイオマス発電施設の導入構想が明らかになった大芝の湯Ⅱ南箕輪村大芝高原



大芝高原で木質バイオマスボイラー発電

イメージ図



南箕輪村が構想

大芝高原に木質バイオマス発電

エネルギーの地域内循環

南箕輪村は、大芝高原の日帰り温泉施設「大芝の湯」近くに木質バイオマスボイラー発電施設を整備する構想を明らかにした。高原内や村内で調達した伐採木などから熱と電気を取り出し、大芝の湯などで活用する計画で、事業費約8億円（概算）を投じてエネルギーが地域内で循環する仕組みの構築を目指す。2025年度に計画を策定して国に提出し、交付金事業として採択されれば26年度から3カ年で整備したい考えだ。

木質バイオマスボイラー発電は、木材を燃やし、ボイラーで発生させた蒸気やガスでエンジンを回転させ、発電する方法。燃焼に伴う熱エネルギーの活用も可能だ。構想だと、大芝高原の森林整備や松枯れで処分が必要となる樹木や建築廃材を粉碎し、2〜7センチの大きさにチップ化した後、燃やして電気と熱に変換する。電気は大芝の湯の照明やエアコン、サウナなどで使用し、熱は温泉を温めたり、床暖房や給湯に使ったりする。余剰エネルギーはキャンプ場などの近隣施設で活用するほか、電力会社への売電も視野に入れる。

施設は、木材チップ製造施設と木質バイオマスボイラー発電施設からなり、両施設を収容する建屋を大芝の湯近くに整備する。建築面積は100平方メートルほどで「住宅一軒程度の小規模なもの」という。木材の搬入道路や保管するバックヤードも必要になる。

村では、建物の長寿命化や浴室改修、厨房拡張などを行う26年度の大芝の湯リニューアル工事（事業費約4億円）に合わせて導入を進めたい考え。

村によると、現在の大芝の湯は灯油と電気を使っていて、23年度の経費は約5000万円。新施設の発電能力は1日当たり300瓩、24時間稼働した場合の木材必要量は年間1800トを見込む。10年先までは高原内で調達できるという。交付金は、最大3分の2の補助が受けられる環境省の地域脱炭素推進交付金の活用を想定している。

（唐沢宏）